

ものの見かた 感じかた

渡辺淳一 エッセンス

渡
辺
淳
一



ものの見かた 感じかた

渡辺淳一
エッセンス

渡辺淳一

講談社

ものの見^みかた感^{かん}じかた

——渡^{わた}辺^{なべ}淳^{じゆん}一^{いち}エッセンス

一九九五年六月一日 第一刷発行

著者 渡^{わた}辺^{なべ}淳^{じゆん}一^{いち}

発行者 野間佐和子

発行所 株式会社 講談社

〒一〇一〇一 東京都文京区音羽二一〇二二

電話 編集部 東京〇三—五三九五—三五二二

販売部 東京〇三—五三九五—三六二二

製作部 東京〇三—五三九五—三六一五

印刷所 慶昌堂印刷株式会社

製本所 株式会社黒岩大光堂

©Junichi Watanabe 1995, Printed in Japan

本書の無断複写(コピー)は著作権法上での例外を除き、禁じられています。

落丁本・乱丁本は小社書籍製作部あてにお送りください。送料小社負担にてお取り替えいたします。なお、この本についてのお問い合わせは、学芸図書第二出版部あてにお願いいたします。

定価はカバーに表示してあります。



ものの見かた感じかた——渡辺淳一エッセンス——目次

第一章 男と女

男と女の境界	10
愛のすがた	16
狂おしい愛	26
色褪せる愛	29
別れのかたち	31
女の内側	34
男の内側	40
性の深淵	52

第二章 生と死と医学と

健康の意味 68

医者という存在 71

患者の心理 78

医療の周辺 82

さまざまな死 88

死から考える 93

生へ向かう体 100

第三章 自然

.....

リラ冷え 104

太陽への憧れ 109

背徳の秋 112

白い悪魔 117

翳りの国 123

第四章 作家と創作 133

虚を見る仕事 134

悪の魅力 154

秘めてこそ 158

去っていく若さ 166

ささやかな日常 173

遠くにおいて 179

一場の夢 183

あとがき 192

著作一覧 195

装画・装幀 山岸義明

ものの見かた感じかた
— 渡辺淳一エッセンス —

第一章 男と女

男と女の境界

男の夢、女の夢

男も女もロマンチストで夢見ることは多いが、男は女に尽す夢を見て、女は男に尽される夢を見る。

——何処へ
いずこ

二つの業

女には一つのものにのめり込みすぎる業があり、男には、いくつものものを追いかけてすぎる業がある。

その罪はどちらが深いとも、浅いともいいがたい。

——化身

嘘のつき方

男は頭で嘘をつき、女は体で嘘をつく。

——わたしの女神たち

醜男

「醜女」^{しこめ}に対する言葉は「醜男」^{ぶおとこ}ですが、これはあまり聞かない。この理由は男は初めから醜いと決まっているからなのか、とにかく「悪」とか「醜」という字は、女の上についてこそ生き生きと存在感をもってくる。

——わたしの女神たち

事実と形

一般に、男は愛の事実を重視し、女は愛の形を重く見る。

——シネマティック恋愛論

与えすぎると

男が女に冷淡になるのは、充分に与えすぎたが故である。したがってこの解決策は、かつての飢餓のときのように、むやみに与えぬことである。

——シネマテイク恋愛論

本当に弱いのは

本当は女性の方が、寒さにも飢えにも環境の変化にも強いのに、つねに男に保護される立場に立とうとします。まるで男の「ええ格好しい」の習性を見抜いてでもいるように、怕こわがってみせたり、甘えてみせたりして、男をけしかけてきます。

でも女をこんなふうにしたのも、もとはといえばすべて男が悪いのです。男が競って女にいいところを見せようとするから、女はますますその気になってよりかかってくるのです。

本当は弱くも、か細くもないのに、女性たちは男性に頼り、責任をかぶせ、本当は強くも、たくましくもないくせに、男たちは女性に頼られることに満足を覚

え、ますます頑張ってみせるのです。

——わたしの女神たち

変貌

男にない女の凄さは、生理によって^{からだ}身が変り、精神ががらりと変貌するところである。

——化身

男友達

親しい男友達がいることを、女性は素晴らしいなどというけれども、当の男は泣く泣く友達になっていることが多いんですよ。彼女を奪うチャンスを失って、やむなく相談だけの男に甘んじているわけで。

——12の素顔（岸恵子さんとの対談より）

恐いもの知らず

女が強いのは最後になると開き直り、恐いもの知らずになれるところである。迷いながらも女は一旦こうと決めたら、すべてを投げ捨てて目的へ突っ走る。この過激でラディカルなところが、女の強さと恐さの原点である。これにくらべれば男の強さなどは知れている。威丈高に声を荒らげ、もっともらしい理屈は述べるが、いざとなると途端に弱気の虫にとりつかれて逃げ腰になる。腰がすわっていないというか、どっちつかずというか、周囲ばかり気にして、最後は円くおさめることばかり考える。

——夜に忍びこむもの（男・滝沢）

未来志向

男がややもすれば虚無や逸楽いつらくに流されて遊ぶのに、女はそこまで身をもちくさず、たとえいつとき遊んだとしても、またなにかを築き、創りだしたいと願い、未来に結実するものを求めていく。

——シネマテイク恋愛論